

知っていますか？このままでは
石川に放射能汚染ガレキが持ち込まれてしまうこと

ママ、わたし、
ひばくするの？



ぜひ知ってほしいこと

子どもは大人の何倍も放射線の影響を受けやすい

がんの危険性は年齢が若くなるにつれて増加します。5歳の子は30歳のお母さんと比べて4～5倍高くなります。

低線量の放射線も危ない

放射線はどの値以下なら安全という境はありません。少なければ少ないほど健康被害の危険性は低くなります。不要な被ばくは極力避けることが大切です。

低い汚染のがれきでも焼却すると濃縮される

焼いて残った灰には33倍（輪島市クリーンセンターの場合）放射能が濃縮されるといわれています。保管は極めて困難です。

被災地への支援策はがれきの受け入れだけではない

一日も早い被災地の復興はみんなの願いです。子どもたちの受け入れ、安全な食べ物の供給など、石川に求められる役割はたくさんあります。

放射能以外の有害物質も

今回の震災がれきは津波によって流されたものです。能登半島地震と違い、油類やアスベスト、農薬類、工場の薬品など様々な有害物質が含まれている可能性があります。一般廃棄物の焼却炉である輪島のクリーンセンターで焼却するのはあまりにも乱暴です。

焼却炉の煙突からも放射能が漏れる

環境省はバグフィルターで放射性セシウムは99.99%排ガスから除去できるとしていますが、実際に実験したわけではないことが明らかになっています。

がれきの広域処理は問題いっぱい

汚染を拡散させるだけでなく経済的にも疑問だらけです。現地に安全性を高めた処理施設を整備し処理した方が、輸送コストはかからず被災地の経済効果も生まれます。

まだ間にあうから おとなの皆さんにお願いしたいこと
受け入れ反対の署名に どうか協力してください。

連絡先：石川の里山里海、子どもたちの未来を放射能から守る会

TEL 0768-22-2480